

2024年2月 旅行取扱高状況報告

< 日本国内における旅行区分別取扱高 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	24,394,892	14,809,675	164.7%	33,856,045	72.1%
国内旅行	5,359,994	5,705,089	94.0%	5,512,092	97.2%
訪日旅行	766,520	509,072	150.6%	2,387,725	32.1%
合計	30,521,407	21,023,837	145.2%	41,755,863	73.1%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ5社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデーtravel、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。また、コロナ以前と比較をするとともに、2019年同月比を記載しております。

■海外旅行

旅の魅力を再発見いただくイベントとして、第3回「HIS大感謝祭」を2月23日・24日の2日間にわたり開催し、延べ14,000名以上の方にご来場いただきました。政府観光局や航空会社、ホテル、クルーズ会社、ウエディング事業社と共に、GWや夏の旅行シーズンにむけて旅行需要の活性化に努めました。2月出発の取扱高においては、2019年同月比で72.3%と3ヶ月ぶりの7割台まで回復。欧州方面が2019年同月比94.7%と安定的な回復をみせており、特に添乗員同行ツアーにおいては、2019年同月比で124.4%と、滞在先のホテルや観光などが充実した商品の人気が高まっており、取扱高を牽引しました。また、20代女性を中心とした卒業旅行需要が好調で、特に韓国、台湾や、タイをはじめとする東南アジアが送客数を牽引しました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比164.7%、2019年同月比72.1%の243億9,489万円となりました。

< 海外旅行取扱高 方面別・商品別・チャネル別データ >

方面別	2019年同月比
アジア	76.4%
オセアニア・南太平洋	104.1%
ハワイ・ミクロネシア	43.1%
欧州・中近東・アフリカ	95.5%
北米・中南米	61.0%

商品別	2019年同月比
手配旅行	77.4%
企画旅行	67.0%

チャネル別	2019年同月比
店舗	57.7%
オンライン	104.6%

■国内旅行

新たな強化施策、グリーンシーズン（5月・6月）にむけた「北海道キャンペーン第1弾」では、「星野リゾート トマム」を取り上げ、リゾート内利用券などの特典が付いた専用パンフレットを販売。トマム以外にも、札幌・小樽・旭川にある星野リゾートにおいて、滞在をさらに満喫いただけるよう、それぞれの地域に合った特典を付けました。GW・夏の繁忙期の早期予約・長期滞在を促進する「沖縄キャンペーン」では、早めの予約で客室の無料アップグレードや長めの滞りで食事をはじめとするお得な特典が付くキャンペーンを通じて、ツアー商品のサービス拡充を図りました。2月出発の取扱高においては、航空券とホテルを組み合わせた「ダイナミックパッケージ」が、前年同月比113.3%と好調に推移した一方で、高単価である航空機を利用したツアーが、前年同別比・2019年同月比において下回りました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比94.0%、2019年同月比97.2%の53億5,999万円となりました。

■訪日旅行

桜の開花シーズンにむけて、アジアや欧米からの訪日旅行需要の獲得をすべく、富士・箱根を絡めた自社主催ツアーの展開をはじめ、日本の台所「豊洲市場」でのマグロの早朝競り見学と、新たな観光スポットとして2月に開業した「豊洲 千客万来」でのマグロの解体ショーと当社が運営する海鮮バイキング「いろは」をパッケージ化したウォーキングツアーなど、旬な商材をラインナップに加え商品の拡充を図りました。取扱高においては、主に東南アジアや北米からの団体旅行が牽引しました。なお、中国マーケットに関しては、団体旅行の回復は鈍いものの、桜シーズンを中心に4月以降の問い合わせ、受注の動きがみられました。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比150.6%、2019年同月比32.1%の7億6,652万円となりました。

2024年2月の日本国内における旅行取扱高合計は、前年同月比145.2%、2019年同月比73.1%の305億2,140万円となりました。

2024年2月 海外における旅行取扱高状況報告

< 海外における旅行区分別 >

(単位：千円)

区分	取扱高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
インバウンド	9,796,903	5,155,696	190.0%	13,344,360	73.4%
アウトバウンド	16,976,047	17,766,873	95.5%	5,816,973	291.8%
合計	26,772,951	22,922,569	116.8%	19,161,334	139.7%

※エイチ・アイ・エス海外現地法人 35 社と海外子会社 4 ブランド (MIKI グループ、MERIT TRAVEL、JONVIEW CANADA、RED LABEL VACATIONS) の社内取引相殺前の取扱高となります。また、2019 年度は旧会計基準、2024 年度のツアー商品は「進行日」、手配旅行は「手配完了日」に計上基準を変更した参考値となります。また、コロナ以前と比較するため、2019 年同月比を記載しております。なお、為替換算レートにつきましては、期中平均レートにて算出しております。

※海外におけるインバウンドとは、各海外拠点における旅行受客業務の取扱高。海外におけるアウトバウンドとは、各海外拠点における旅行送客業務の取扱高。

■ 海外インバウンド

オーストラリア法人では、卒業旅行と語学研修需要の高まりにより、前年同月比 215.8%、2019 年同月比 90.7%と順調な回復となりました。また、ブラジル法人では、リオのカーニバルの開催に伴う日本からの受客増加もあり、前年同月比 116.2%、2019 年同月比 63.2%と堅調な回復をみせております。カナダ法人の「JONVIEW CANADA (※1)」は、スキー場のコンディション悪化など、暖冬の影響がみられたものの、一定のレジャー需要を取り込み、前年同月比 96.4%、2019 年同月比 143.6%で推移しました。「MIKI グループ (※2)」では、日本からの欧州行きパッケージツアーや団体旅行による受客が回復し、特にイタリアでは卒業旅行需要を確実に捉えたことで、前年同月比 232.5%、2019 年同月比 83.7%と、海外インバウンド事業全体の取扱高を牽引しました。

以上の結果、海外インバウンド取扱高は、前年同月比 190.0%、2019 年同月比 73.4%の 97 億 9,690 万円となりました。

■ 海外アウトバウンド

フィリピン法人では、日本行きの団体・インセンティブ旅行による、ビジネスクラスでの航空券手配やオプションツアー等の付加価値の需要を獲得した結果、前年同月比 186.3%、2019 年度同月比 148.2%と好調に推移しました。また、ドイツ法人では、欧州域内の出張需要と、現地駐在マーケットの日本への帰国に伴う渡航需要の増加により、前年同月比 101.0%、2019 年同月比 119.4%となりました。取扱高を牽引するカナダ法人の「RED LABEL VACATIONS (※3)」は、引き続き暖冬の影響を受け、単価が控えめな近場に需要が偏り、取扱高は前年同月比 93.1%となりました。(2019 年同月は連結対象外)

以上の結果、海外アウトバウンド取扱高は、前年同月比 95.5%、2019 年同月比 291.8%の 169 億 7,604 万円となりました。

2024 年 2 月の海外の旅行事業取扱高合計は、前年同月比 116.8%、2019 年同月比 139.7%の 267 億 7,295 万円となりました。

(※1) JONVIEW CANADA (連結対象：2017 年 12 月～)

カナダを代表するツアーオペレーターとして、欧州からの受客を中心にインバウンド事業を展開。世界中の旅行業向けの商品やサービスを多数提供し、30 年以上にわたり事業展開する中で、カナダ国内の 2,000 以上を超えるサプライヤーと提携。2023 年 8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

(※2) MIKI グループ (連結対象：2017 年 5 月～)

欧州並びに日本を含むアジア各国の 30 都市以上で事業展開するグローバルツアーオペレーター。サプライヤーとの強い信頼関係に基づく確かな仕入と、きめ細やかな手配力・現地を知り尽くした企画力で、世界中の旅行会社の安心・安全・高品質な旅作りを実現。

(※3) RED LABEL VACATIONS (連結対象：2019 年 3 月～)

カナダを拠点にオンライン旅行販売とホールセラー事業を通じてアウトバウンド事業を展開。オンライン販売のブランド (redtag.ca と itravel2000.com) を通じて、世界中のパッケージツアー、フライト、ホテル、周遊など、多様な旅行商品を提供。ホールセラーとしては、カナダの旅行代理店にあらゆる旅行商材を提供。2023 年 8 月より HIS グループカナダ法人「HIS Canada Travel」として合併。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス

I R室：050-1746-4188

広報室：050-1746-4177